

第2部 意見交換

テーマ②

「避難所における多様なニーズへの配慮について」

令和3年度 堺市防災会議
(書面開催)

避難所の整理

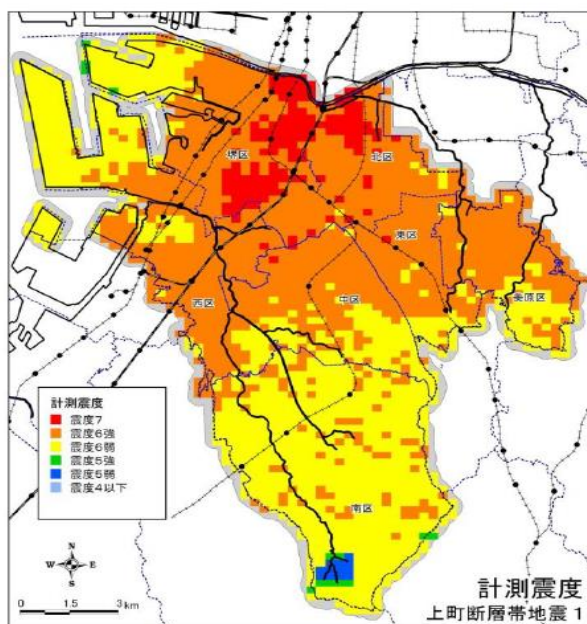
名称	目的	対象	箇所数
指定緊急避難場所	<u>災害から一時的に逃れる</u>	市立小中学校 高等学校 体育館など	<u>108</u>
指定避難所	<u>災害から逃れ生活する</u>		<u>161</u>

堺市の多くの小学校は、風水害時における「**指定緊急避難場所**」であり、かつ、地震時における「**指定避難所**」として指定している。中学校は、「指定避難所」のみの役割を有しているところが多い。

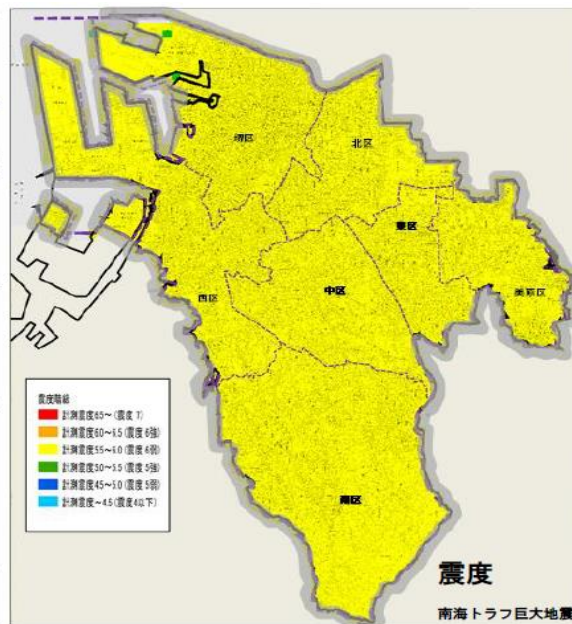
堺市の災害と避難所のイメージ

◆堺市が想定する地震災害（避難所生活者数）

- ・上町断層帯地震（マグニチュード7.4～7.8 震度5弱～7） 避難所生活者 **138,643人**
- ・南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.0～9.1 震度5強～6弱） 避難所生活者 **74,402人**



(a) 上町断層帯地震



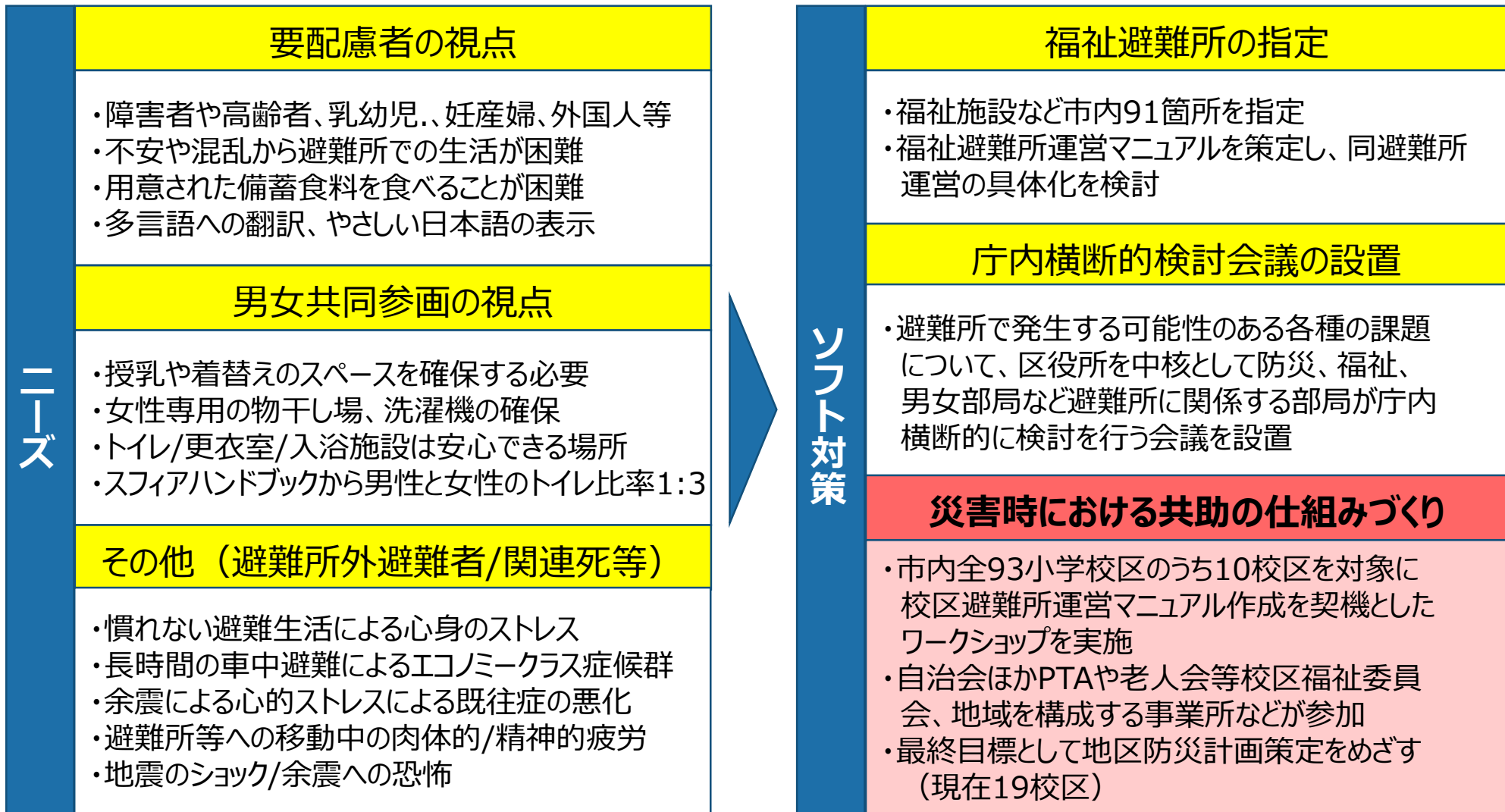
(b) 南海トラフ巨大地震（府被害想定より）

◆開設する避難所（161箇所＝1避難所あたり：約900人）

避難所生活における多様なニーズと「ハード」対策

ニーズ	ハード対策（配備物品）
排泄	マンホールトイレ（継続的に使用可能、障害者用トイレ）や仮設トイレなど避難者75人に1基を配備している。今後は50人に1基をめざし取り組むほか簡易トイレ等やおむつ（大人/子ども）を配備
食料飲料水	アルファ化米など3食分（おかゆ等高齢者食10%含む）、とろみ剤（災害協定）アレルギー対応食、粉及び液体ミルク、ビスケットほか市内給水拠点から応急給水実施
停電	ガソリン発電機（ガソリン含む）、光源（ハロゲンライト）ライトスタンド、コードリール、太陽光発電（一部）プラグインハイブリッド車等による給電（災害協定）
感染症対策	サージカルマスク、アルコール消毒液、次亜塩素酸ナトリウム、体温計段ボールベッド（パーテーション含む）、ワンタッチパーテーション感染性廃棄物ボックス、フェイスシールド等
暑さ寒さ	毛布、冷暖房機材（災害協定）
通信、救助 関連死対策	災害用優先電話、トランシーバー、救助ロープ、バール、ハンマーボルトクリッパー、担架、弾性ストッキング（災害協定）
女性への配慮	女性用更衣室（授乳室）テント、トイレ用防犯ブザー、生理用品ほか
外国人への配慮	避難所多言語シート（日常会話等を集約したシート）多言語支援センター（避難所等在日外国人の支援）

避難所生活における多様なニーズと「ソフト」対策



災害時における共助の仕組みづくりに係る課題

◆ 自主防災組織の活動が退潮

- ・消防庁の調査で2019年度➡訓練など実施率最低
- ・直近10年間で活動率がここ数年を境に低下傾向に
- ・人口減少時代により担い手不足、組織の形骸化
- ・メンバー高齢化による活動量の低下

◆ 堺市における自主防災活動等の現状

- ・平成10年度から小学校区単位に組織を新設
- ・自主防災組織の高齢化/活動の定着化困難など
- ・自治会加入率の大幅な低下（コミュニティ希薄化）

市の取組

- 災害用物品の備蓄等のハード対策
- 福祉避難所の指定
- 庁内横断的検討会議の設置
- 災害時における共助の仕組みづくり など

課題・問題意識 懸念・不安

- 多様なニーズの把握
- 各ニーズへの適切な対応とは
- 自主防災組織の活動が退潮
- 堺市における自主防災活動等の現状



- どのようなニーズがあるか
- 共助の仕組みづくりへの提案